

平成28年度
広島市競輪運営委員会
第1回資料

平成28年11月29日
広島市経済観光局競輪事務局

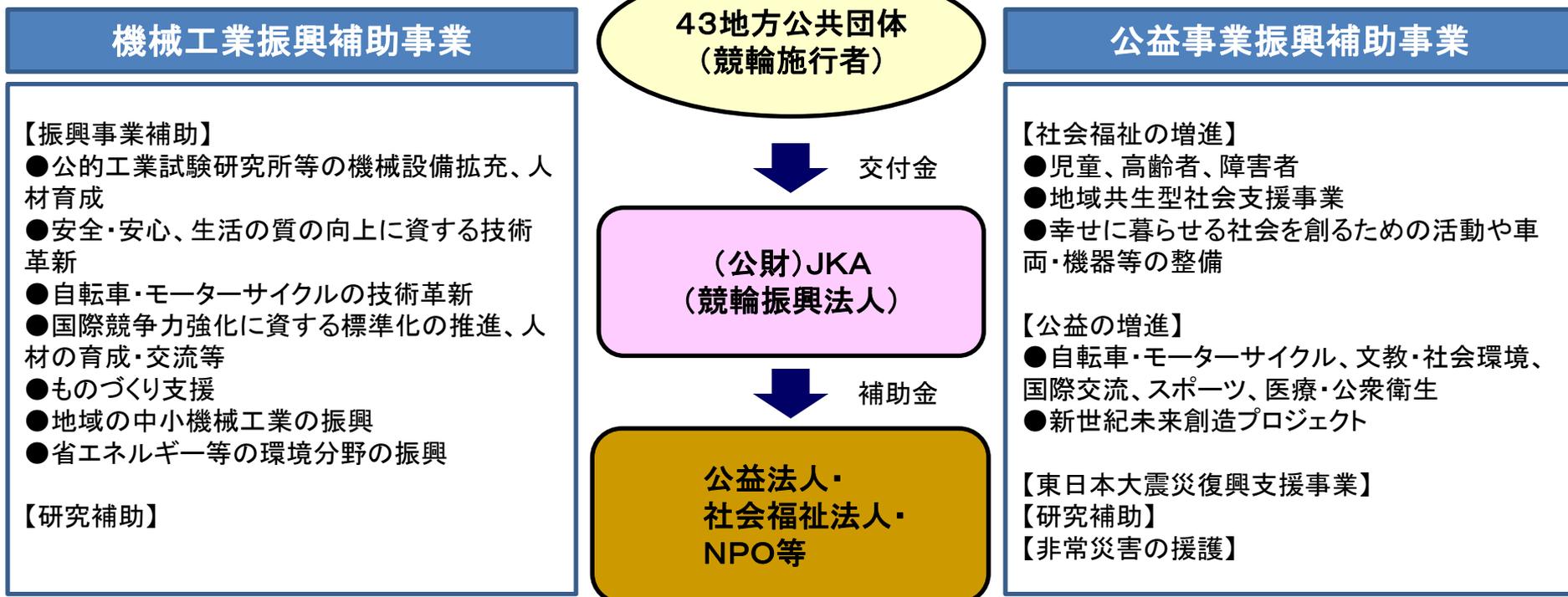
～ 目 次 ～

I. 競輪事業の仕組みP1	
1 競輪事業の目的、競輪場数等.....P2	
2 JKA補助事業の仕組み.....P3	
3 競輪関係団体・機関.....P4	
II. 広島競輪事業の概要P5	
1 広島競輪場の施設概要.....P6	
2 広島競輪の開催日数.....P7	
3 前回答申と包括委託契約の概要.....P8	
4 広島競輪事業の歳入・歳出の構造	
(1) 歳入の構造.....P9	
(2) 歳出の構造.....P10	
5 広島競輪事業の関係者等.....P11	
III. 包括委託後の広島競輪事業の運営状況P12	
1 全国ベース各公営競技の売上高の推移.....P13	
2 全国ベース競輪事業の車券売上高・入場者数の推移.....P14	
3 広島競輪の車券売上高・入場者数の推移.....P15	
4 広島競輪の場外車券売上高・入場者数の推移.....P16	
5 広島競輪の単年度収支の状況.....P17	
6 広島競輪の基金残高等の状況.....P18	
7 広島競輪の一般会計への繰出しの状況.....P19	
8 包括委託受託者による新たな集客事業	
(1) 基本コンセプト.....P20	
(2) 施設整備	
① 場内テレビ映像のデジタルハイビジョン化.....P21	
② サイクルパーク.....P22	
③ トイレ改修.....P23	
(3) ソフト事業	
① 各種イベント.....P24	
② サイクルクラブ.....P25	
IV. 競輪界の最近の動向P26	
1 競輪事業の持続的発展に向けた中期基本方針(競輪最高会議).....P27	
V. 課題P28	
1 施設の老朽化と耐震性の欠如.....P29	
2 トータリゼータシステムの老朽化.....P30	

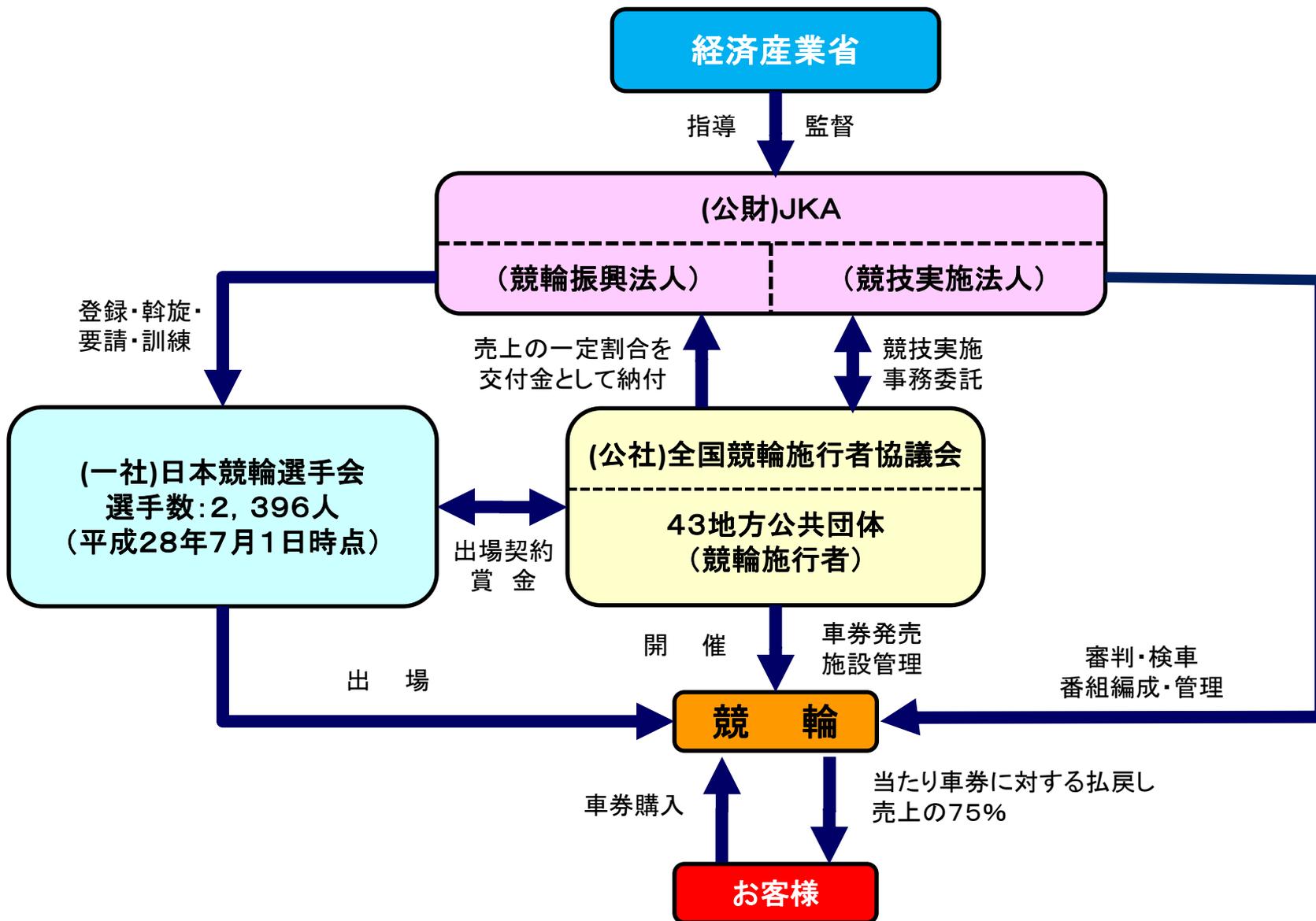
I . 競輪事業の仕組み

2 JKA補助事業の仕組み

- ◆公益財団法人JKA(自転車競技法に基づき『競輪振興法人』に指定されている。)は、機械工業の振興、公益の増進を目的とする事業に対し、広く補助事業を行っている。その補助事業の原資には競輪事業の売上げの一部が充てられ、競輪を実施する地方公共団体は、車券売上の一定割合(約1.9%)を公益財団法人JKAに対し納付しなければならない。
⇒法目的の「①自転車その他機械工業の振興」及び「②体育、社会福祉など公益の増進」の達成
- ◆これによって、競輪施行者(地方公共団体)の一般会計への繰出し(⇒法目的の「③地方財政の健全化」の達成)が行われていない場合でも、競輪を実施する法的正当性が維持される。

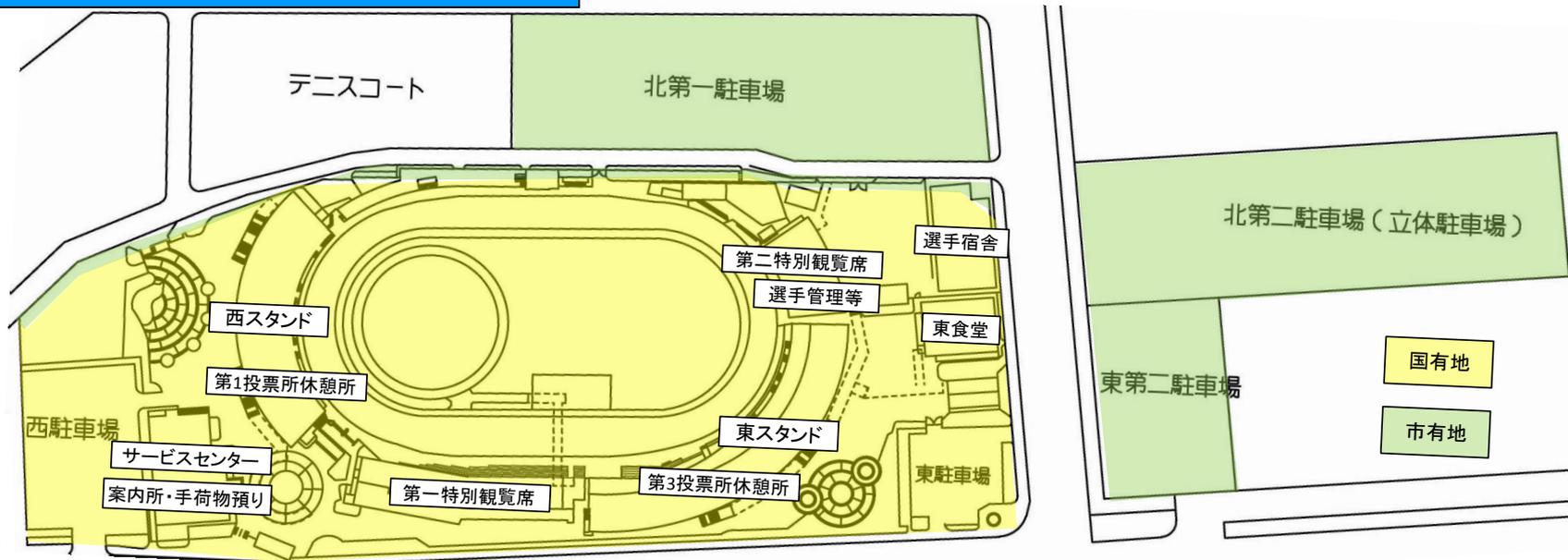


3 競輪関係団体・機関



Ⅱ. 広島競輪事業の概要

1 広島競輪場の施設概要



開設	昭和27年(1952年)12月
施設規模	敷地面積 約67,000㎡(駐車場 約24,000㎡を含む) (国有地は46,000㎡、市有地は21,000㎡)
	建物延床面積 約22,000㎡
所在地	広島市南区宇品海岸(JR広島駅から電車、バスで30分)
収容人員	総収容人員 22,632人(立見を含む)
H27年度本場入場者数 年間:54,847人	一般観覧席 東スタンド1,122席/西スタンド1,130席 第一特別観覧席 241席 第二特別観覧席 286席(現在閉鎖中) サービスセンター 304席 第1・3投票所休憩室 各80席 駐車場 1,297台
発売払戻窓口数	有人 25窓/自動機 36台(最大)
その他	選手管理棟(宿泊可能 124名、31室)、電光掲示板 1台(現在非稼働) 場内テレビ、食堂、案内所、手荷物預かり所、休憩室 等

2 広島競輪の開催日数

- ◆本場開催に加え、場間場外発売を行っており、年間約340日、車券発売を行っている。
車券発売は、早朝7:30からの前売発売も行っている。
- ◆集客が期待される週末はGⅠ・GⅡクラスや各競輪場の開設記念競輪(GⅢ)など、ファンに人気の高い特別競輪の場間場外発売を、ほぼ毎週行っている。
このため、開設記念競輪(GⅢ)を除く市営のFⅠ・FⅡクラスの普通競輪の多くは平日開催となっている。
- ◆競輪の実施に支障のない範囲で、アマチュア自転車競技団体の大会や練習会場として活用されている。

【開催日数の状況(平成27年度実績)】

区 分	日 数	説 明
本場開催	46日	広島競輪場において、市営競輪を開催すること。 (GⅢ 1節4日、FⅠ 6節18日、FⅡ 8節24日)
場間場外発売	293日	広島競輪場において、県外の競輪場の車券を発売すること。

【アマチュア自転車競技団体による広島競輪場(バンク)使用実績(平成27年度実績)】

使 用 目 的	団 体 名	使用日数	延べ参加人数
全国大会等の練習ほか	広島県高体連自転車競技専門部ほか	30日	1,046人

※平成27年度は、バンク改修のため9月～11月は閉鎖

3 前回答申と包括委託契約の概要

【前回答申(平成26年6月5日受理)】

1. 従事員の雇用からイベント・広告宣伝に至る競輪事業に係る業務を一括して、民間事業者に可及的速やかに委託すること。その際、民間事業者との委託契約の終期は、競輪場施設の耐用年数を考慮し、最長でも平成30年度までとすること。
2. 民間事業者への業務の一括委託に際して、引き続き就業を希望する従事員については、民間事業者においても雇用が確保されるよう最大限配慮すること。また、民間事業者が下請契約を発注するに当たっては、市内中小事業者の受注機会の増大に努めるよう求めるなど、地域経済に最大限配慮すること。
3. 平成29年度までの事業実績において、次のような事態が生じた場合は、平成30年度をもって事業を廃止すること。
 - (1) 事業収支に単年度赤字が生じた場合。ただし、単年度赤字の主な原因が、天災によるレースの中止など予見しがたい事態の発生である場合には、その事態が発生しなかったものとみなして判断するものとする。
 - (2) 前号以外の場合であっても、競輪場施設の解体等に必要となる経費及び適正規模の一般会計への繰出しに必要となる資金が確保できないことが明らかとなった場合。

【包括委託契約の概要(平成27年3月2日契約締結)】

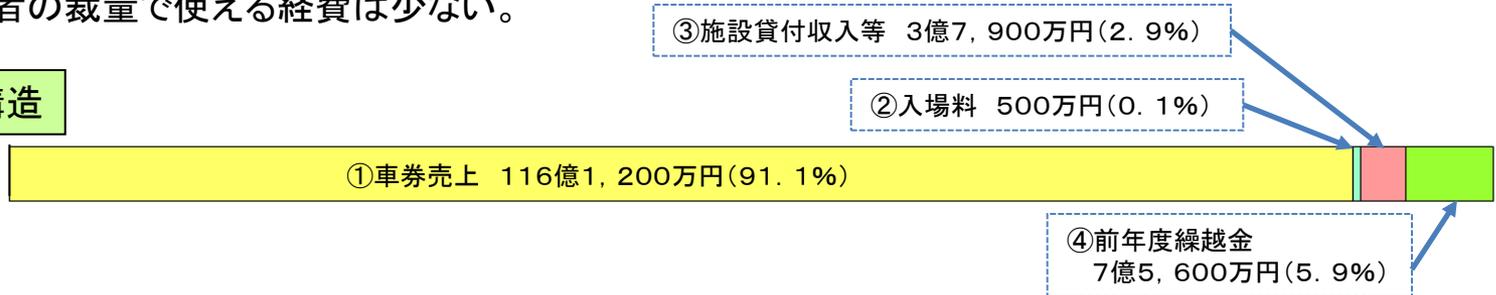
業 務 名	広島競輪開催業務			
委 託 期 間	平成27年4月1日～平成31年3月31日(4年間)			
受 託 者	日本写真判定株式会社 (公募型プロポーザル方式により選定)			
委 託 料 限 度 額	3億2,392万4,000円(1年当たり)			
主 契 約 内 容	毎年、3億円の収益を保証することとし、歳入歳出差引額が3億円に満たない場合、その不足額を補填する。 $\begin{aligned} \text{歳入} &= \text{歳入総額} - \text{前年度繰越金} - \text{基金繰入金} \\ \text{歳出} &= \text{歳出総額} - \text{施設整備費} - \text{基金積立金} - \text{一般会計繰出} \end{aligned}$			
委 託 に 伴 う 経 費 削 減	(単位:百万円)			
	区 分	26年度 (A)	27年度 (B)	増 減 (B-A)
	広島市職員 人件費	15人 159	9人 83	△76
	イベント・広報等	279	委託料	
	従事員賃金	65	309	△78
	清掃・警備等	43		
	合 計	546	392	△154
そ の 他	業務の再委託にあたっては、それまで受注していた地元業者へ発注した。			

4 広島競輪事業の歳入・歳出の構造

- ◆競輪事業は、特定の歳入(車券売上等)をもって特定の歳出(払戻金等)に充てる事業で、一般会計と区分する必要があるため特別会計を設置して経理しており、いわゆる一般財源(市税等)の投入はない。
- ◆歳入は、車券売上がほとんど全て。一方、歳出は払戻金やJKA交付金など、売上連動の義務的な経費が多く、施行者の裁量で使える経費は少ない。

(1) 歳入の構造

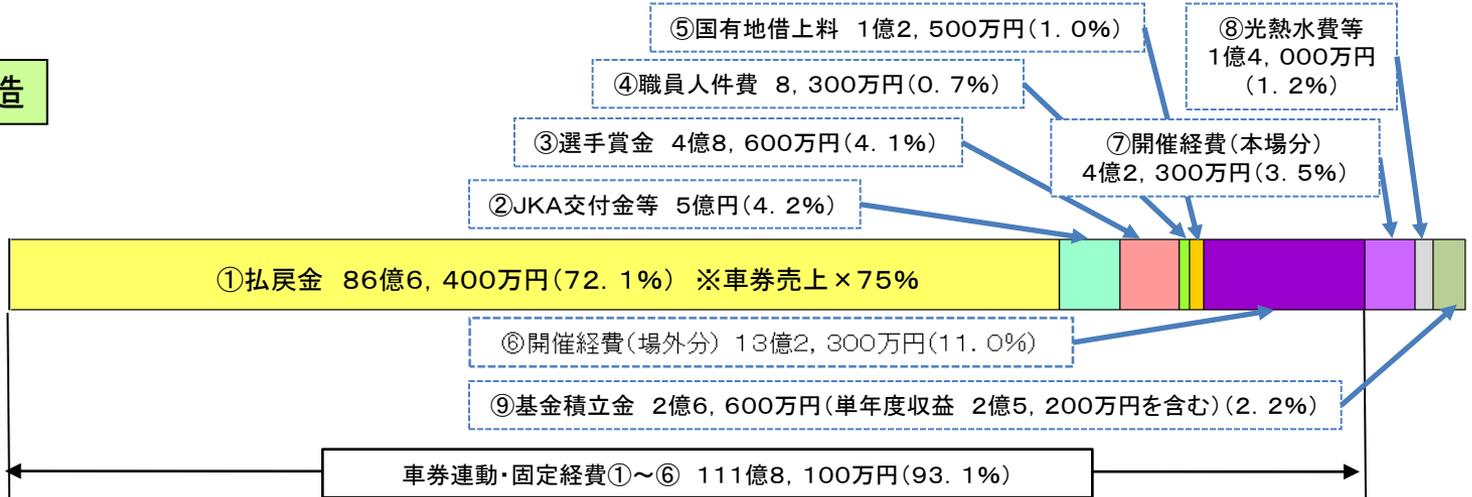
H27決算
127億5,200万円



区分	歳入の説明
①車券売上	<ul style="list-style-type: none"> ・いわゆる本場開催(平成27年度は46日開催)に係る車券の売上。 ・車券売上は、「本場」分(広島競輪場内で発売するもの)、「場外」分(県外の他の競輪場や専用場外車券売場等で発売するもの)及び「電投」分(電話やインターネットを通じて発売するもの)に区分される。
②入場料	<ul style="list-style-type: none"> ・本場開催時に徴収するもの。 ・以下の2種類に区分される。 <ul style="list-style-type: none"> ア 一般席入場料:50円 イ 特別観覧席入場料:700円
③施設貸付収入等	<ul style="list-style-type: none"> ・県外の他の競輪場の車券発売に係る他の競輪場からの収入(いわゆる場間場外発売のことで、平成27年度は293日発売)(3億3,400万円) ・競輪場内にある食堂等の施設貸付収入及び光熱水費の実費回収金等(1,400万円) ・包括委託契約に基づく収益保証補填金(3,100万円) ※平成27年度～
④前年度繰越金	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の歳入歳出差引額で、当該年度に繰り越されて収入となるもの。

(2) 歳出の構造

H27決算
120億1,000万円



区分	歳出の説明
① 払戻金	・的中車券に対するもので、その総額は車券売上の75%相当。 (自転車競技法の改正により、70%まで引下げ可能。)
② JKA交付金等	・(公財)JKAや(公社)全国競輪施行者協議会等へ支払うもの。
③ 選手賞金	・出場選手に対して支払うもの。
④ 職員人件費	・競輪事務局の職員に対して支払うもの。
⑤ 国有地借上料	・競輪場敷地の借上料として国に支払うもの。
⑥ 開催経費(場外分)	・県外の他の競輪場等で車券を発売する際に、その競輪場等に支払うもの。
⑦ 開催経費(本場分)	・包括委託料(広告宣伝費、イベント開催経費、施設維持管理費など)(3億900万円) (本場開催時の発売窓口担当等の従事員の賃金を含む。) ・インターネット車券発売に係る手数料など。(1億1,400万円)
⑧ 光熱水費等	・光熱水費、トータルゼータシステム利用料、バンク改修等の施設整備費など。
⑨ 基金積立金	・将来的な施設改修等に備え積み立てるもの。

5 広島競輪事業の関係者等

◆ 広島競輪場の関係者数(約310人)は、県内「百貨店、総合スーパー」の1店舗当たりの従業者数(約180人)の1.7倍、同じく市内「百貨店、総合スーパー」の1店舗当たりの従業者数(約220人)の1.4倍。

				平成28年11月(A)	平成27年3月(B)	増減(A-B)
広島競輪 関係者数	直接的 なもの	市職員	一般職	9人	15人	△6人
			嘱託職員	} 包括委託業者 へ雇用移管	8人	△8人
			臨時従事員		85人	△85人
		計	9人	108人	△99人	
	包括委託業者 (日本写真判定株)	正社員	11人		11人	
		契約社員	85人		85人	
	計	96人		96人		
	合 計		105人	108人	△3人	
	競輪関係 団体	(公財)JK A中四国支部	13人	13人	—	
		(一社)日本競輪選手会広島支部所属選手	約60人	約60人	—	
	間接的 なもの	警備業務(約50人), 清掃業務(約20人)		約70人	約70人	—
		食堂・喫茶(約30人), 選手宿舎(7人)		約37人	約37人	—
		写真判定業務		包括委託業者に含む	約10人	△約10人
電気・空調設備(4人), 投票等機器保守(約10人)		約14人	約14人	—		
予想自治会		8人	9人	△1人		
総合案内等		包括委託業者に含む	約10人	△約10人		
合 計		約129人	約150人	△約21人		
総 合 計		約307人	約331人	△約24人		

[参考データ]

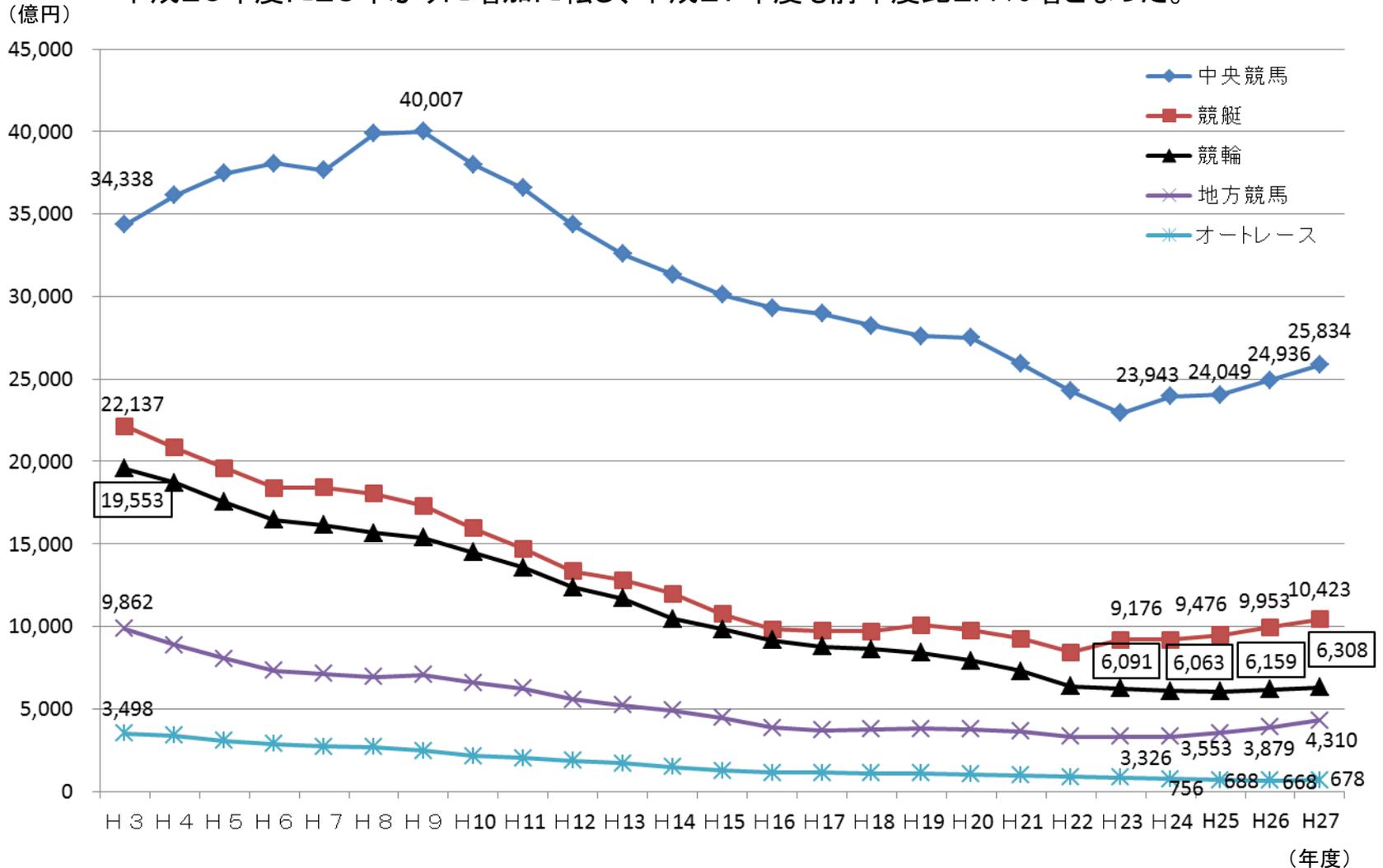
区 分	店舗(事業所)数	従業者数	1店舗(事業所)あたり 従業者数	統計名
県内の百貨店、総合スーパー	45店舗	8,061人	約180人	平成26年商業統計(県)
市内の百貨店、総合スーパー	23店舗	4,976人	約220人	平成19年商業統計(市)

(注) 「百貨店、総合スーパー」とは、衣・食・住にわたる商品を小売りし、衣、食、住の各販売額がいずれも小売販売総額の10%以上70%未満で、従業員が常時50人以上の事業所をいう。

Ⅲ. 包括委託後の広島競輪事業の運営状況

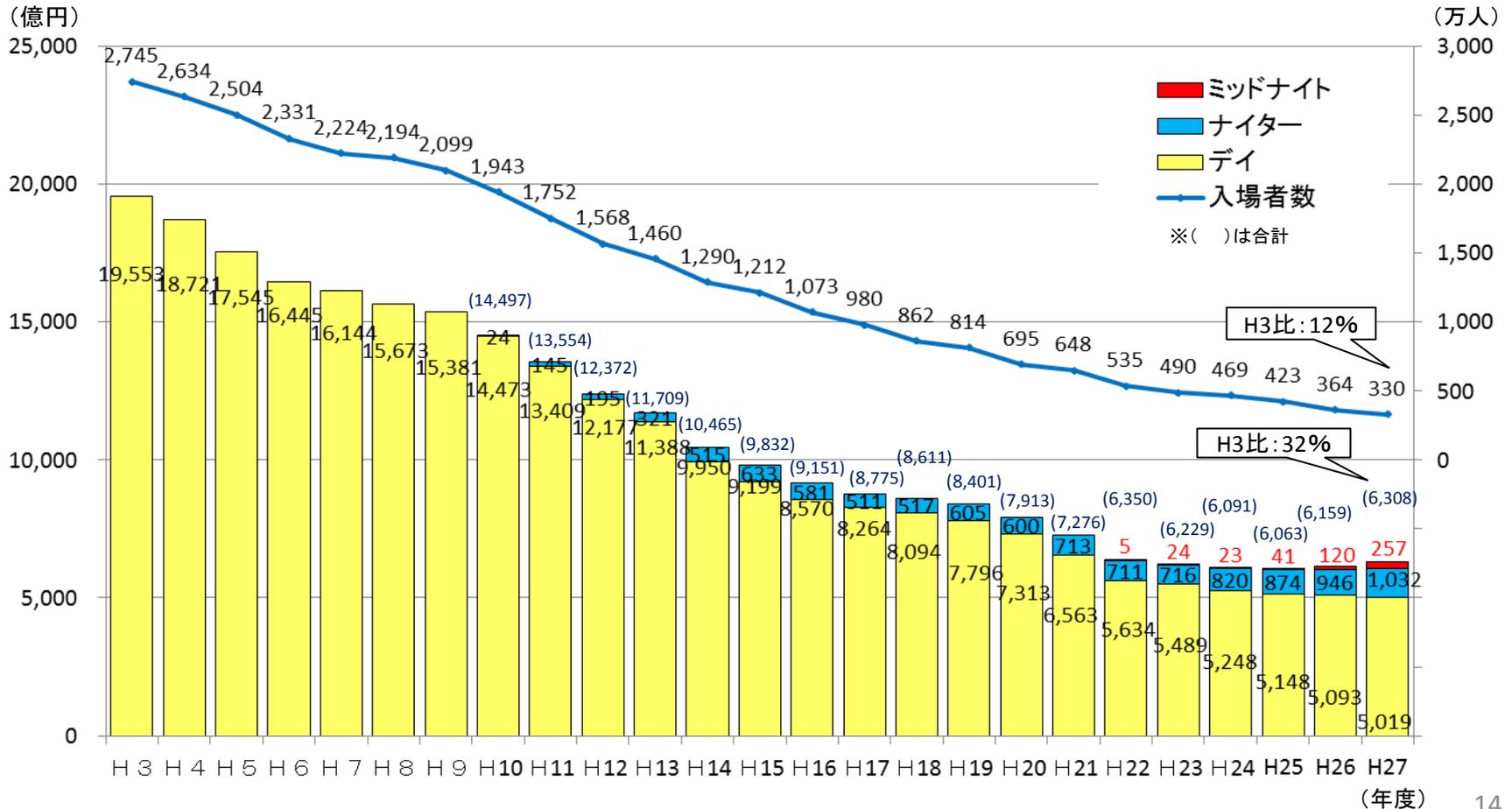
1 全国ベース各公営競技の売上高の推移

- ◆ 公営競技の売上高は、長らく減少傾向であったが、近年、増加傾向である。
- ◆ 直近の競輪の売上高は、ピーク時(平成3年度)に比べて68%減(平成27年度)であるが、平成26年度に23年ぶりに増加に転じ、平成27年度も前年度比2.4%増となった。



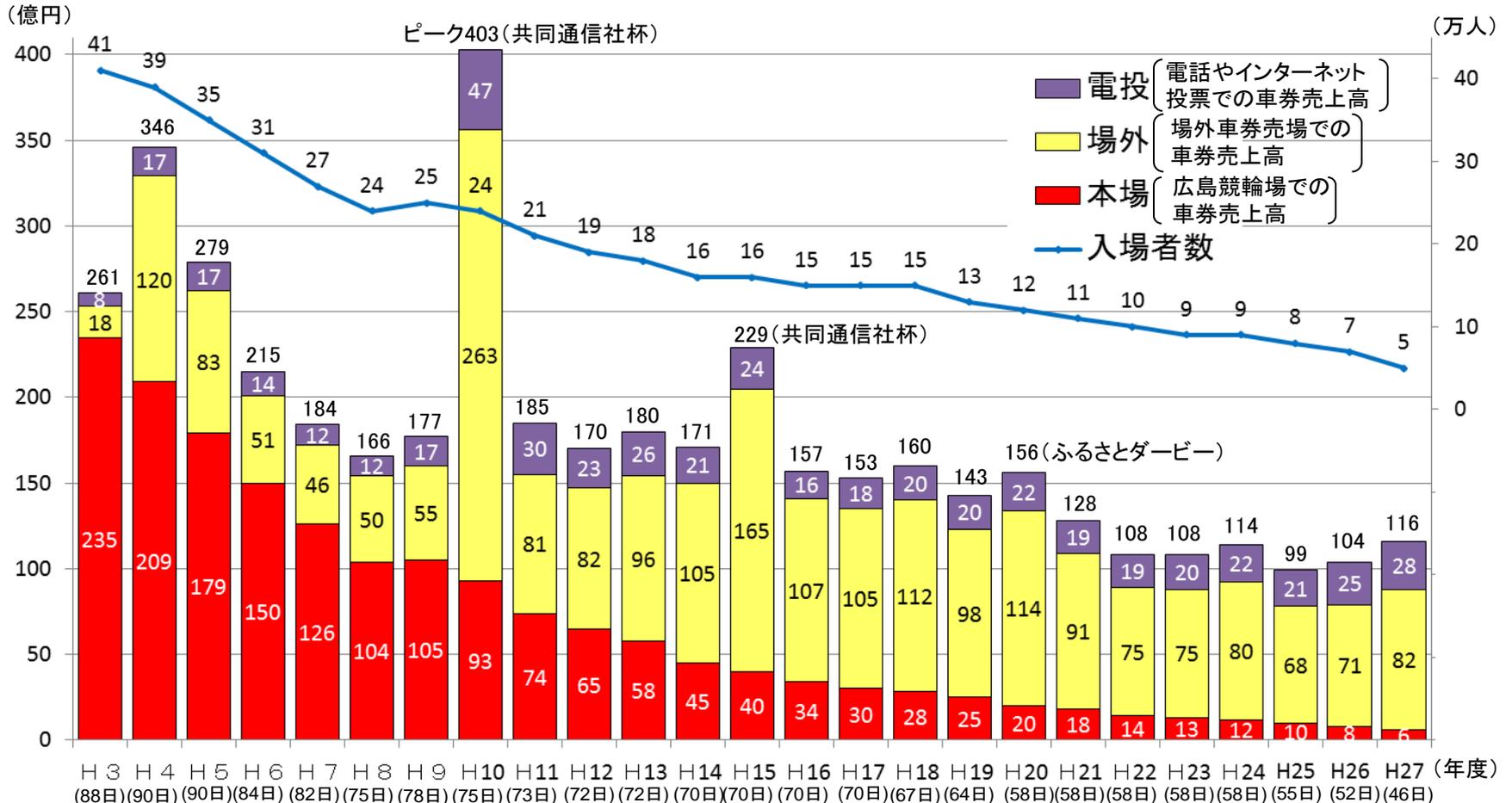
2 全国ベース競輪事業の車券売上高・入場者数の推移

- ◆ナイター競輪は、午後3時台～午後8時台で行われ、平成10年度から始まった。現在は、16競輪場(函館、青森、いわき平、前橋、京王閣、松戸、川崎、平塚、伊東温泉、四日市、玉野、松山、小倉、久留米、武雄、佐世保)で開催されている。
- ◆ミッドナイト競輪は、午後9時過ぎ～午後11時過ぎに無観客で行われ、平成22年度から始まった。車券発売はインターネットのみのため、開催経費が抑えられ収益性が高く、ネット発売が好調なことから開催日数・売上とも増加している。現在は、9競輪場(青森、前橋、西武園、奈良、玉野、高知、小倉、武雄、佐世保)で開催されている。
- ◆2年連続の売上増は、ナイター及びミッドナイト競輪の開催日数増等によるものである。



3 広島競輪の車券売上高・入場者数の推移

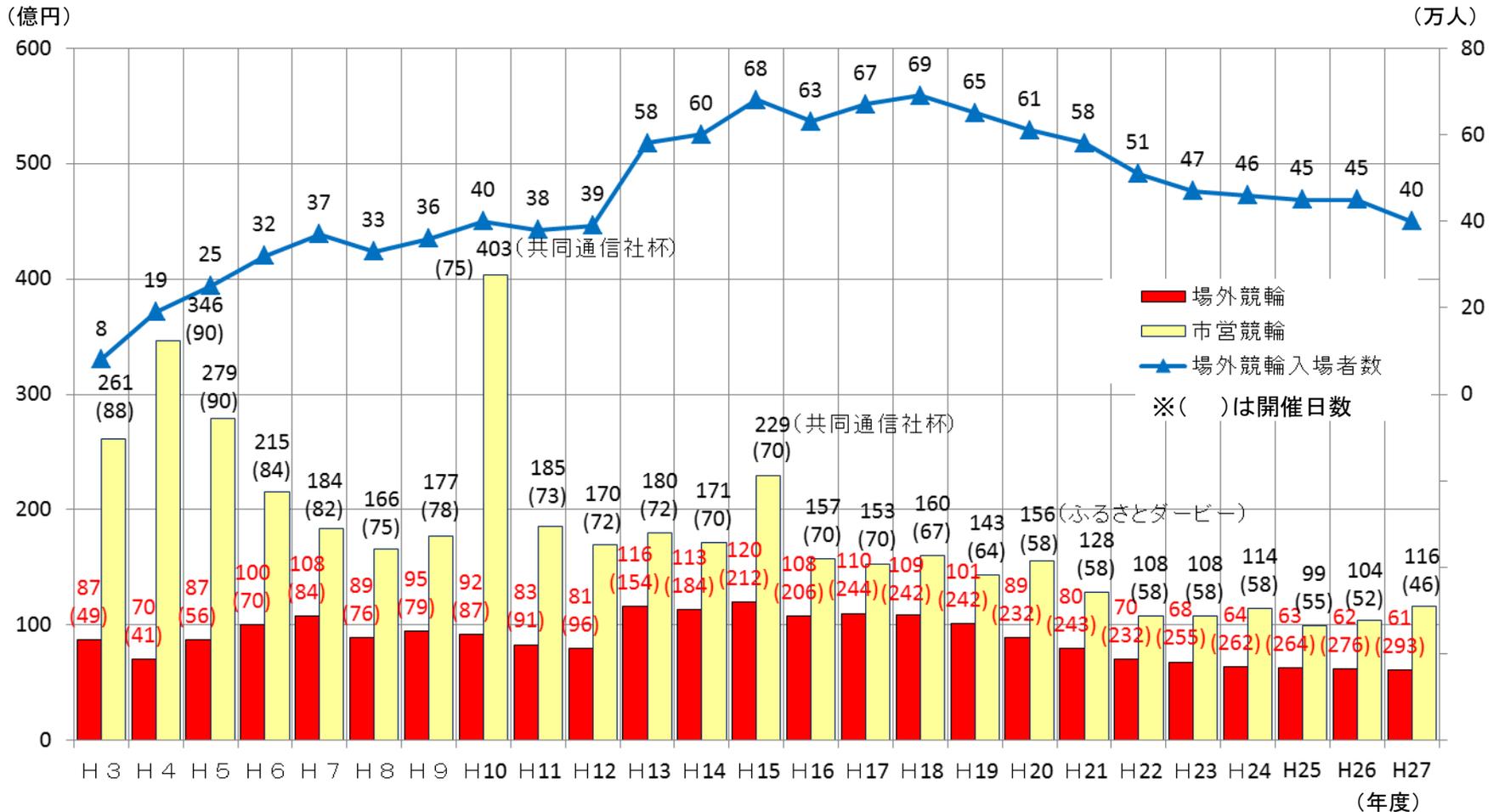
- ◆特別競輪を開催した平成10・15・20年度を除き売上高は減少傾向にあったが、近年、売上高は横ばいである。平成27年度は、場外発売所が多い「西日本カップ(FI)」を開催したため売上高が増加。
- ◆本場売上は減少が続き、場外発売や電投への依存度が高まっているが、これらの発売に要する経費は、売上高に応じて増えるため、実質的な収益額は減少。
- ◆入場者数は、全国ベースで車券売上のピークだった平成3年度と比較すると、平成27年度は約1/8。平成27年度の1日平均は、約1,200人(最大約2,400人、最少約500人)



※()は開催日数

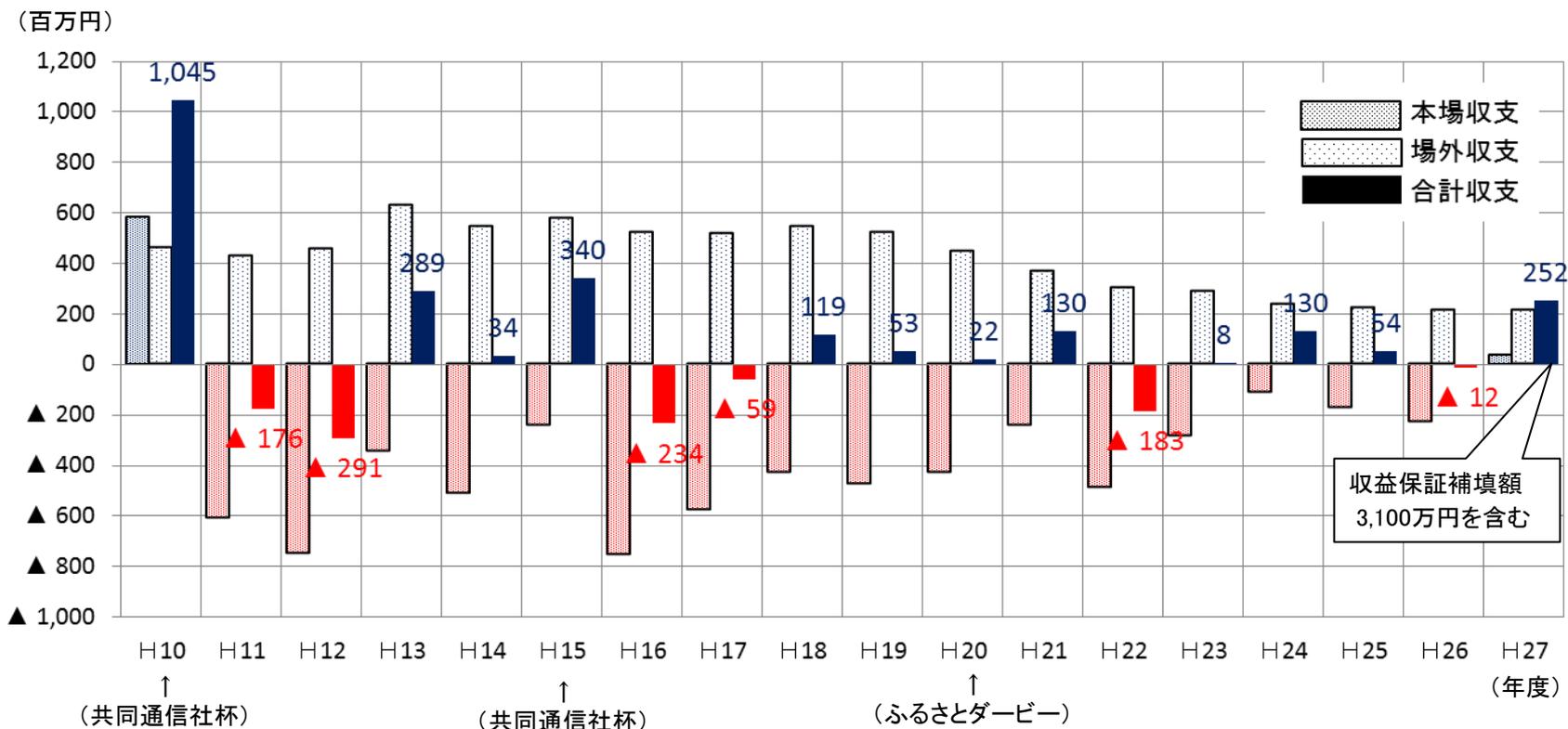
4 広島競輪の場外車券売上高・入場者数の推移

- ◆場外競輪の売上は、競輪を開催する施行者(本場施行者)の収入となる。
場外発売を行う施行者は、全国競輪施行者協議会で定められたレースグレード別の経費率を売上額に乗じた額から必要経費を差し引いた額(売上額の3.70%~8.44%)を本場施行者から収入する。
- ◆市営競輪の売上の落ち込みを補完するため場外競輪を開催しているが、収益確保のために年々開催日数は増加し、近年は市営競輪開催日以外は、ほぼ全日、場外競輪を開催している。
- ◆入場者は、本場と同様に減少傾向。平成27年度の1日平均は、本場の1,200人に対し、場外は1,400人。



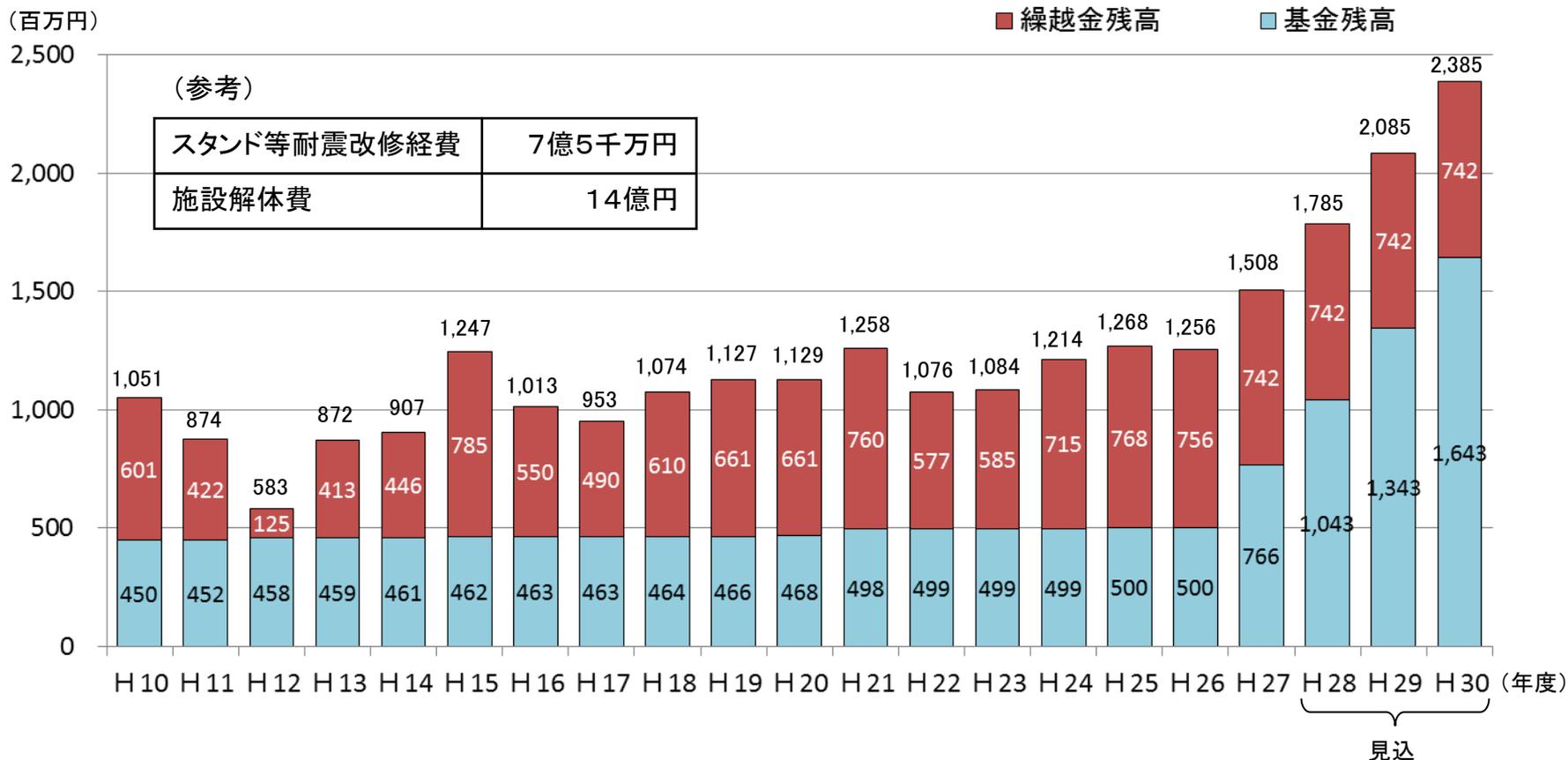
5 広島競輪の単年度収支の状況

- ◆売上高の減少に伴い、単年度収支も悪化。近年は、平成26年度まで黒字を維持するのが精一杯で、施設改修や機器更新などの臨時的な支出に対応するための基金残高等の増額が困難な状況が継続。
- ◆平成26年度の赤字は、包括委託に伴う臨時従事員の雇用移管に係る退職金の支払い等によるもの。
- ◆平成27年度から30年度までの4年間は、包括委託契約による収益保証により、毎年3億円から施設整備費を除いた額の黒字が確実。
- ◆本場の赤字を場外競輪の黒字で補う傾向にあったが、平成27年度は、包括委託導入による経費削減により本場が平成10年度以来の黒字。



6 広島競輪の基金残高等の状況

- ◆競輪事業には、将来に向けて活用可能な財源として、「基金」と「繰越金」とがある。
- ◆「基金」は家計で言うところの貯金に相当し、取り崩して何にでも使うことができ、また、「繰越金」は、その年度に使いきれなかったお金を次の年度に繰り越したもので、当面の手持ち現金にあたる。
- ◆「基金」と「繰越金」とを合わせた残高は、平成27年度からの包括委託の導入による収益保証により、委託期間満了の平成30年度末には約24億円になると見込まれ、平成31年度以降、競輪事業を継続する場合の耐震改修経費、或いは廃止する場合の施設解体経費を賄うことができることとなる。



7 広島競輪の一般会計への繰出しの状況

(1) 繰出金の使途

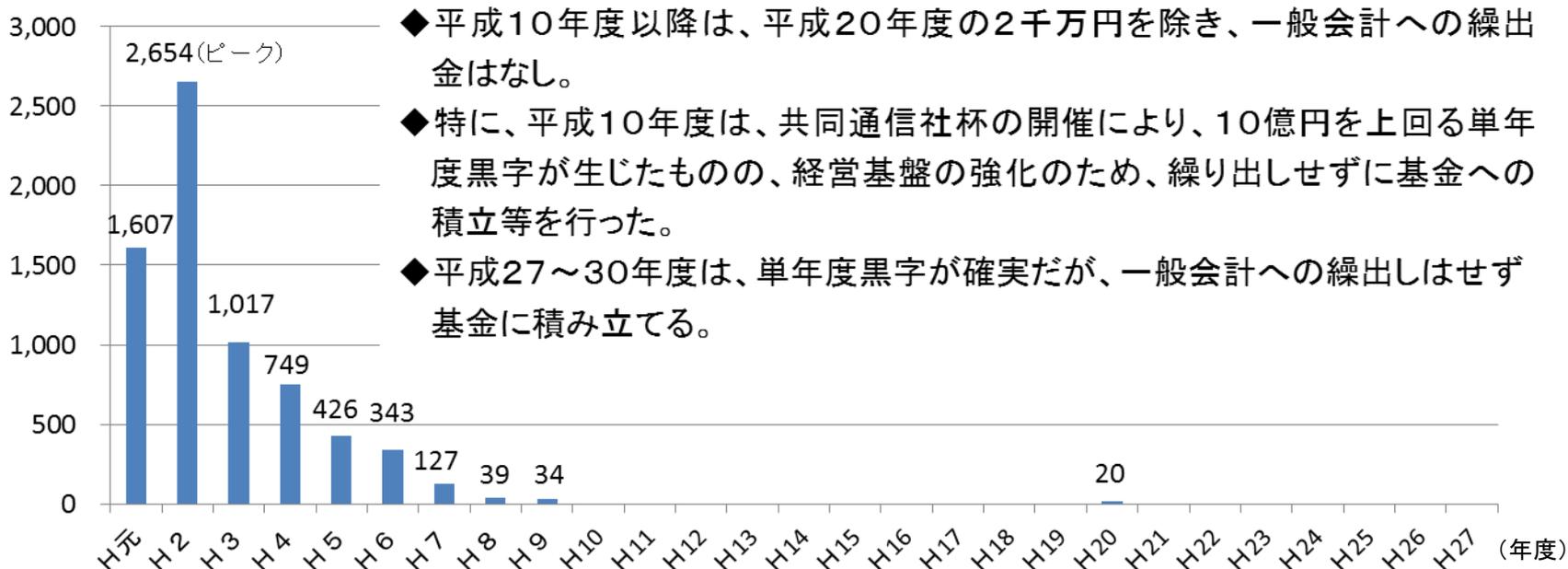
◆昭和29年度からこれまでの間に、広島競輪の収益から本市の一般会計に総額345億円を繰り出し、体育館・集会所整備等、住宅・道路・下水道整備、学校整備、公民館整備、病院整備など、都市づくりの貴重な財源となってきた。

(億円)

体育館・集会所等整備 136	住宅・道路・下水道整備 82	学校整備 49	公民館整備 46	病院整備 32
-------------------	-------------------	------------	-------------	------------

(2) 繰出金の推移

(百万円)



◆平成10年度以降は、平成20年度の2千万円を除き、一般会計への繰出金はなし。

◆特に、平成10年度は、共同通信社杯の開催により、10億円を上回る単年度黒字が生じたものの、経営基盤の強化のため、繰り出しせずに基金への積立等を行った。

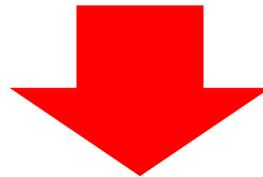
◆平成27～30年度は、単年度黒字が確実だが、一般会計への繰出しはせず基金に積み立てる。

8 包括委託受託者による新たな集客事業

(1) 基本コンセプト

広島競輪場のイメージ転換

- 従来のギャンブル場というイメージからの脱却
- お子様からお年寄りまで誰もが気軽に立ち寄れる場所へ



- 自転車をテーマにした公園「サイクルパーク」へ
- 「サイクルスポーツ」の拠点へ

- 競輪場の施設、スタッフや関係者を最大限活用し、地域の皆様に貢献することで、「広島競輪場」を地域の財産に

(2) 施設整備

① 場内テレビ映像のデジタルハイビジョン化



広島 12R S級決勝 2車単オッズ 締切23分前

1 平原慶多	2 深谷知弘	3 中川誠一郎	4 桐山敬太郎	5 浅井康太
1 9.1	1 0.0	1 163.8	1 2345	1 300.3
2 18.2	3 91.0	2 172.9	2 236.6	2 309.4
3 27.3	4 100.1	4 172.9	3 245.7	3 318.5
4 36.4	5 109.2	5 182.0	5 254.8	4 327.6
5 45.5	6 118.3	6 191.1	6 263.9	5 336.7
6 54.6	7 127.4	7 200.2	7 273.0	6 345.8
7 63.7	8 136.5	8 209.3	8 282.1	7 354.9
8 72.8	9 145.6	9 218.4	9 291.2	8 364.0

6 金子寺央	7 脇本雄太	8 志智俊夫	9 諸橋愛
1 373.1	1 445.9	1 518.7	1 591.5
2 382.2	2 455.0	2 527.8	2 600.6
3 391.3	3 464.1	3 536.9	3 609.7
4 400.4	4 473.2	4 546.0	4 618.8
5 409.5	5 482.3	5 555.1	5 627.9
6 418.6	6 491.4	6 564.2	6 637.0
7 427.7	7 500.5	7 573.3	7 646.1
8 436.8	8 509.6	8 582.4	8 655.2

総計 2,040,608票

場内テレビ及び映像制作システムをデジタル化して、より鮮明なレースやオッズ映像を提供

(テレビ設置台数)

40インチ液晶テレビ 93台

65インチ液晶テレビ 9台



② サイクルパーク(子ども向け遊具・コンテナハウス)設置



ふあふあ (エア遊具)



ランニングバイク
(バイク・ヘルメット貸出)



サイクルストリート
(バーチャル自転車ゲーム)



コンテナハウス外観



キッズルーム



フリースペース



サイクルインフォメーション

平成27年度サイクルパーク年間利用者数

幼児	小中学生	大人	合計
2,831人	745人	3,386人	6,962人

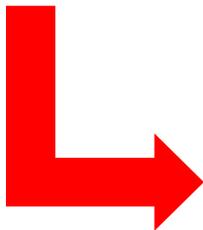
平成27年度サイクルパーク平均利用者数

区分	平日	土日祝	合計
稼働日数	105日	87日	192日
利用人数	890人	6,072人	6,962人
平均	9人	70人	36人

(平成27年9月～11月はコンテナハウス設置工事のため閉鎖)

③ トイレ改修

場内全カ所のトイレの美装工事を実施



(3) ソフト事業

① 各種イベント

ひろしまサイクルフェスタ 開催日：平成27年9月22日（火・祝）
＜バンクフリー走行＞ 約100名 ＜ランニングバイク大会＞ 約50名
＜サイクルストリート＞ 約40名 **総参加人数 約300名**



ひろしまぴーすけカップ（ランニングバイク大会） 開催日：平成28年5月29日（日）
＜ランニングバイク大会＞ 約250名 **総参加人数 約400名**



サイクルパークひろしま夏祭り 開催日：平成28年7月16日（土）～18日（月・祝）
＜ちらし持参来場者＞ 約182名 **総参加人数 約1,000名（3日間）**



② サイクルクラブ



バンク走行会



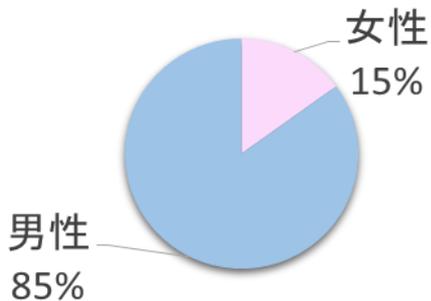
サイクリングイベント



高校生強化練習
所属メンバーがインターハイで活躍

性別比率

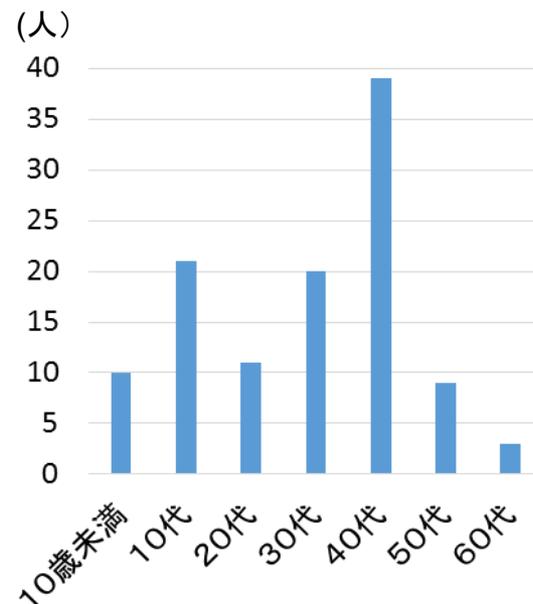
性別	人数	比率
女性	17	15%
男性	96	85%
合計	113	100%



年齢層分布

年代	人数	比率
10歳未満	10	9%
10代	21	19%
20代	11	10%
30代	20	18%
40代	39	34%
50代	9	7%
60代	3	3%
合計	113	100%

(データ:平成28年8月8日現在)



IV. 競輪界の最近の動向

1 競輪事業の持続的発展に向けた中期基本方針 (平成28年6月30日 競輪最高会議)

達成目標

【2016～2020年度】

- 売上: 7, 000億円以上(2015年度: 6, 308億円)
- 施行者収益: 160億円以上(2015年度見込み: 144億円)
- 競輪場: 43場体制の維持
- 競輪選手数: 2, 400名程度の維持

課題と具体的方策

JKA

(役割: お客様の要望に応える
企画提案)

- 不採算レースの改善⇒FⅡ
レースの収益向上
- 新規顧客獲得に向けた体制
の構築⇒東京オリパラを契
機とした自転車競技ファンの
取り込み
- 業界内情報共有の仕組みの
構築⇒双方向コミュニケー
ションが可能な会議体の設置
- 民間企業の積極的活用と環
境整備⇒民間ポータルサイト
との連携及び活用強化

全国競輪施行者協議会

(役割: 競輪施行者の財務体
質改善)

- 市場規模に応じたビジネスモ
デルの構築⇒後背地人口に
応じたモデル場の選定と開催
日数等の最適化
- 既存商品の売上の最大化
⇒重賞式車券の魅力向上に
よる「くじファン」の誘引

日本競輪選手会

(役割: 選手が実力を発揮でき
る環境整備)

- 選手の魅力向上による活性
化⇒科学的トレーニングを用
いた選手強化と社会貢献活
動の促進
- 選手の競走環境の安定化
⇒車券売上に連動した賞金
総額増減の仕組み作りと選
手共済制度の建て直し

V. 課

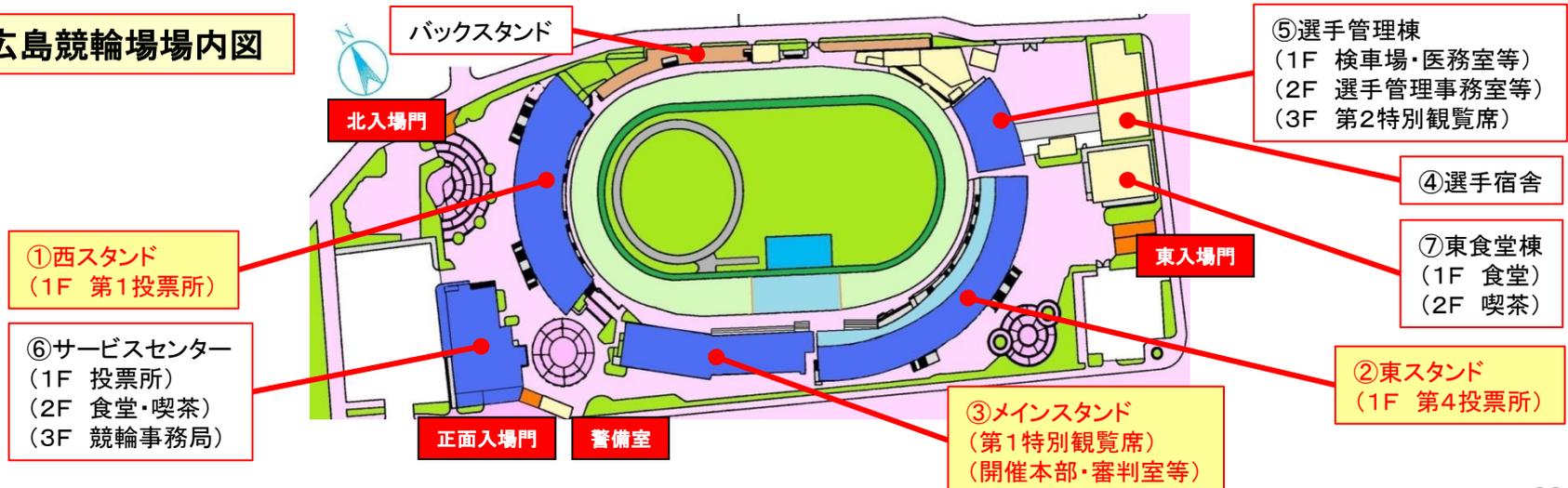
題

1 施設の老朽化と耐震性の欠如

- ◆ 観覧席や投票所、開催本部など主要な機能が集まるメインスタンドや東・西スタンドは、震度6強以上の大地震発生の際には、倒壊する危険性が高く、耐震改修を行う場合、約7億5,300万円の経費を要する。
- ◆ 入場者数(最大2,400人)に対して施設規模(総収容人員約2万人)は過大であり、投票所も分散して配置されているなど、管理しにくい構造となっている。
- ◆ 一部を除き休憩所や投票所は、主にスタンド下などの屋外のスペースに配置されている。
近年建て替えられた競輪場が、ドーム型であったり、観覧席が空調の完備した屋内に配置されているのに対し、お客様に快適な観戦環境が提供できていない。

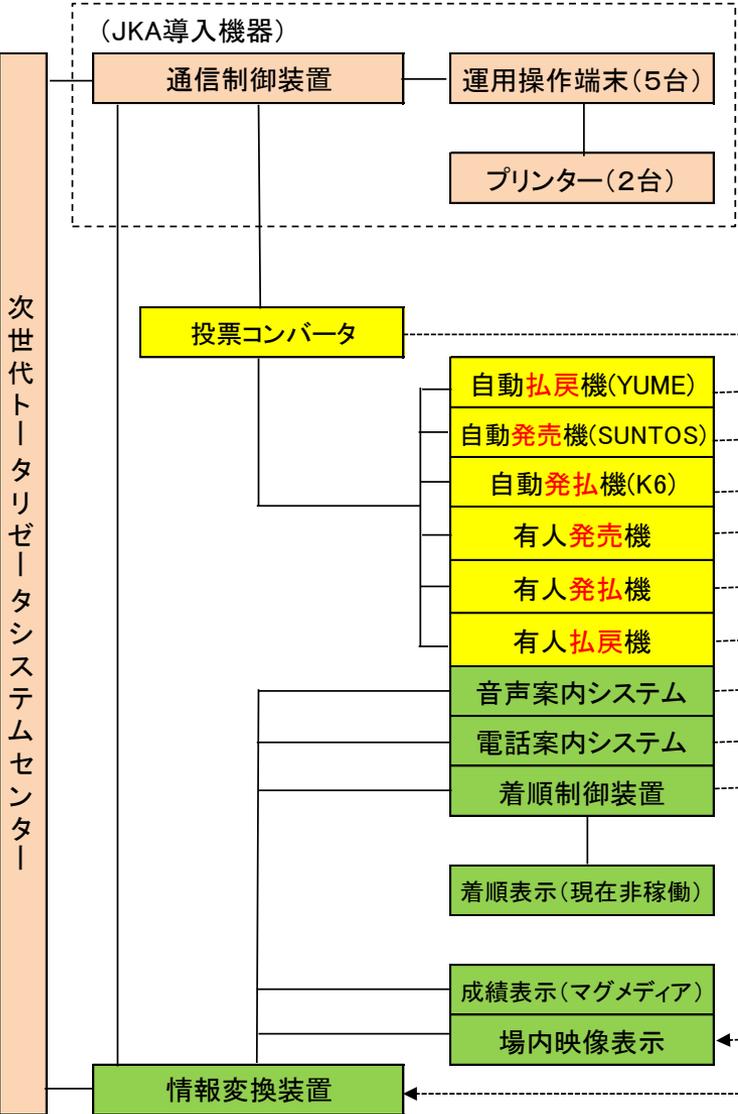
施設名	施工年度	築年数 (年)	構造	階数	延床面積 (㎡)	耐震診断		
						調査結果	概算改修費	
①西スタンド	S.43	48	屋根鉄骨造その他鉄筋コンクリート	3	4,420	NG	2億9,500万円	
②東スタンド	S.44	47	屋根鉄骨造その他鉄筋コンクリート	3	5,581	NG	2億9,200万円	
③メインスタンド	東棟	S.43	鉄骨鉄筋コンクリート造	4	1,099	NG	1億 800万円	
	西棟	S.46	鉄骨鉄筋コンクリート造	3	1,734	NG	5,800万円	
合 計								7億5,300万円

広島競輪場場内図



2 トータリゼータシステムの老朽化

- ◆トータリゼータシステムは、競輪場における車券の発券からオッズの表示と集計、配当金の計算と払戻までの一貫したシステム。
- ◆投票系機器のうちの自動機及び情報系機器の一部が経年により修理部品供給が困難になっている。



現 行			更 新		
稼働台数(台)	導入年	経過年数(年)	台数(台)	費用(万円)	
				買取	4年リース年額
1	2011	5	更新不要(経過年数少)		
6	1997	19	36	19,984	5,468
1	2003	13			
29	2003	13			
15	2003	13	更新不要(既存未使用機を利用)		
5	2003	13			
5	2003	13			
1	2003	13	1	1,180	323
1	2003	13	1	1,400	383
1	1984	32	1	1,850	506
合 計				24,414	6,680

※金額は税抜き

↑ 投票系機器 ↓
↑ 情報系機器 ↓



自動機



有人機

← 包括委託業者の負担で更新(2015)